

三重県図書館協会研修会

図書館職員専門講座



Internet で Reference

事例発表 「インターネット時代の図書館の在り方と
三重大学附属図書館の取り組み」

2001年11月2日

三重大学附属図書館

preference

n. 選択；ひいき，選り好み (*to, for, over*) ;
他より好まれる物 [人] ; 好物；優先 (権) ;
<http://dictionary.goo.ne.jp/cgi-bin/ej-top.cgi>



発表内容について

前半 : 図書館とインターネットを取り巻く状況

- ・公共図書館を中心に
- ・レファレンスツールとしてのインターネットの検証

後半 : 三重大学附属図書館の取り組み状況

- ・LNK集の紹介
- ・ここ一年の取り組み
- 今後の情報戦略



図書館とインターネットの現在

「2005年の図書館像

～地域電子図書館の実現に向けて～」

文部省 地域電子図書館構想検討協力者会議 平成12年12月

注

平成12年11月28日 生涯学習審議会 答申

新しい情報技術を活用した生涯学習の推進方策について」

ウェブサイト“Digital Library”の取り組み

注

情報化時代の流れに即した変容を迫られている公共図書館に対する

IT時代といわれる21世紀の市民生活や生涯学習活動をサポートするため情報提供



インターネットはレファレンスに どれくらい使われているか？

1998年秋～2000年春のカナダでの調査結果：注
OPAC以外の電子情報をレファレンスツールとして利用
公共図書館 :14.4%、大学図書館 :42%

インターネットの情報源がレファレンスツールとしての効果は認められているのに、実際には、図書館員の介在は少ない。

なぜか？



インターネットの情報源が信頼できると考えていない
インターネット情報を評価・活用する訓練を受けていない



インターネットはレファレンスに 使える？使えない？

インターネット上の情報をレファレンスに
利用するにあたっての3つの問題点

情報の信憑性の問題

情報の安定性・固定性の問題

典拠や引用の方法の問題



インターネットはレファレンスに 使える？使えない？

情報の信憑性の問題

インターネット上の情報は玉石混交

国会図書館の見解：

注

公的機関の「統計」「白書」「審議会」「委員会資料」など

= **実用性が高い**

学術機関の「機関誌」「紀要」「学位論文」など

= **学術的価値は無視し得ない**

無料の有用データベースの公開

注

➔ **情報源として十分に活用できるようになってきた。**



インターネットはレファレンスに 使える？使えない？

情報の安定性・固定性の問題

納本

インターネット上の情報は、印刷物のように、保存されことなく修正、変更、削除などが行われる。

注

平成11年 「21世紀を展望したわが国の納本制度の在り方」

- …CD-ROMなど「パッケージ系電子出版物」を納本の対象とする
- …「ネットワーク系電子出版物」は当分の間対象外とし、必要・有用なものは契約により収集する。

平成12年 「電子図書館サービス実施基本計画」

- …「ネットワーク系電子出版物」はサービスのために必要・有用なものは納入以外の方法により選択的に収集する



インターネットはレファレンスに 使える？使えない？

情報の安定性・固定性の問題

組織化と保存

「インターネット上の電子情報資源に関する
アンケート調査結果について」 2001年7月

注

組織化の問題

電子情報の書誌情報（メタデータ）

本のタイトルや著者に相当する最低限の基本的なデータ= 付与していない 8割

保存の問題

保存に関する明確な方法を定めている機関はほとんど存在しない。

削除した電子情報をまったく保存していない機関 2割



インターネットはレファレンスに 使える？使えない？

情報の安定性・固定性の問題

課題 ネットワーク系電子情報の収集、
書誌情報 (メタデータ、国際標準ダブリン・コア^注 に準拠) の付与、
保管までを、個々の機関に負担をかけずに行う必要がある。

→ インターネット上の情報源を、自動的に収集・
組織化・保存するための、システムづくりが
検討されている。 注



インターネットはレファレンスに 使える？使えない？

典拠や引用の方法の問題

インターネット上の情報は、安いコストでだれもが情報を発信できる反面、その文献の帰属先を特定しにくい。

参照したときのロケーションが変わったり、時に消失することもあるなど、参照にあたって留意が必要。

➡ **最低必要とされる情報は記述しておく**

「だれが」「どのような媒体に」「どこから入手」+ 「いつ」

・国際標準化の動きもある。

注



インターネットとレファレンスの 今後の関わりは？

情報化社会の流れや図書館界の動き

印刷媒体とネットワーク上の情報の共存・電子図書館化

レファレンスの効果

インターネットを利用してレファレンスに答えると、レファレンス質問への回答の成功率が高く、回答までの時間が短い。[注](#)



図書館員はインターネットをレファレンスツールとして認め、検索方法や評価をし、伝統的なツールと同様、仲介者としての役割を果たさなければならない。[注](#)



どう使う？ インターネットでレファレンス

とっかかりとして使うもの

- * 検索エンジン、個人のホームページなど

最終目的としても使えるもの

- * 公的機関の「広報」「統計」「白書」「審議会」「委員会資料」..

- * 学術機関の「機関誌」「紀要」「学位論文」..

(有料のデータベースやサービスなど)

ユーザ側の情報リテラシー (情報の活用評価)

- * 印刷媒体の場合でも同様のことが求められる。



レファレンスツールとして 共有 活用するために

とりあえず、ブックマークをつける

* 情報を**共有するため**にブラウザ上で
「お気に入り」の登録をする。

LINK集やナビゲーションのしくみをつくる

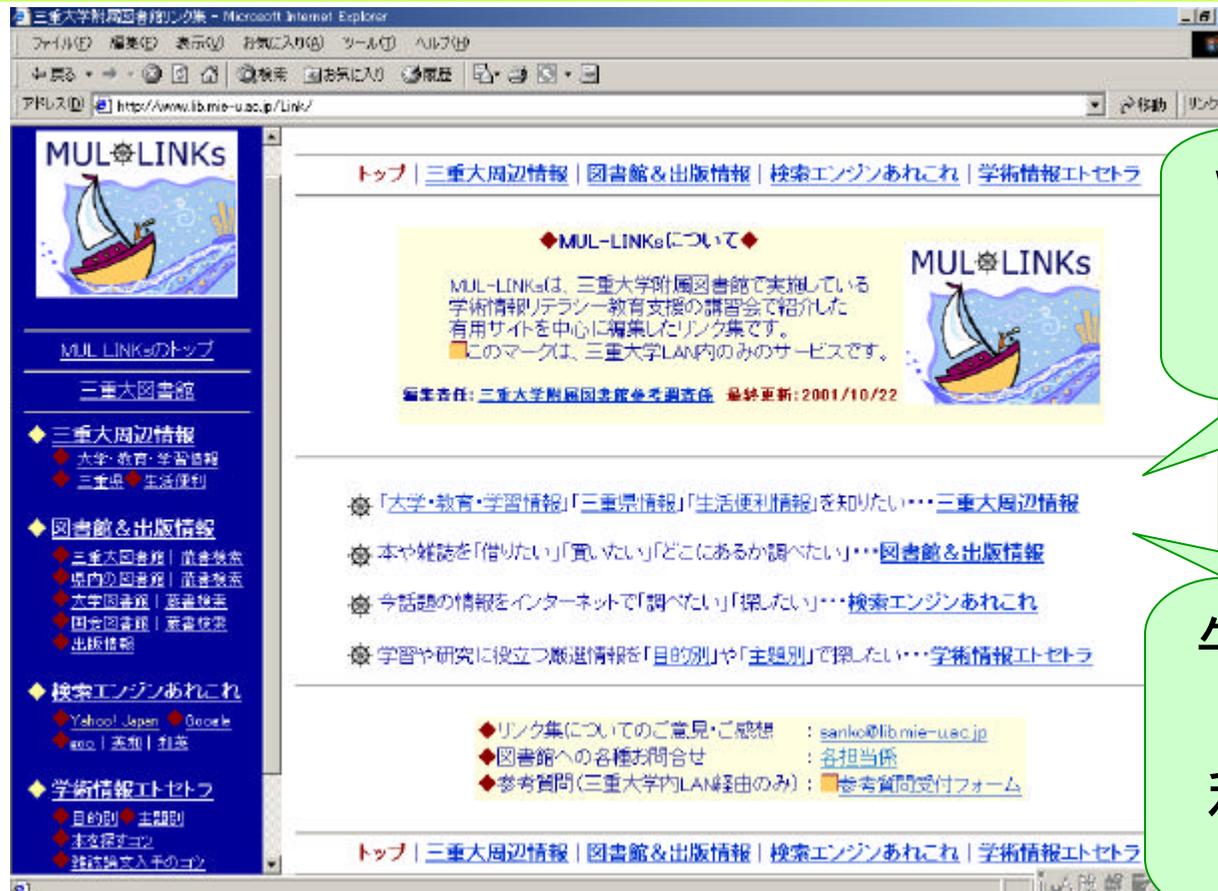
* スタッフがレファレンスに使えるサイトや、
将来的にユーザ本人が使えるようなサイトを
LINK集にまとめる。

利用案内的 (**ナビゲーション的**)に使うこともできる。



三重大学附属図書館リンク集の紹介

URL <http://www.lib.mie-u.ac.jp/Link/>



Webブラウザを見ながら
ご紹介します

午後の実習で
実際に
利用してみてください



リンク集のコンセプト

ターゲットを絞る 誰に使って欲しいのか？

- * 図書館スタッフがレファレンスで使う。
- * 三重大関係者、三重大に興味がある人を中心に汎用性のあるものを集めて、ユーザにも使ってもらう。

何を集めるのか :どんな風に使ってほしい？

- * 自分にとって使い勝手がいいか？
- * 初めてアクセスした人でも、使いやすいか？ = 客観的な構成
- * 学術情報だけ？ もっと身近な生活情報も？ = 情報の範囲
- * 有用サイトをうまく紹介できているか？ = レファレンスツールの解題



リンク集...誰がどのように運営するか

立ち上げはW Gなどでも・・・

*はじめは「ブックマーク」に登録して共有することから

ルーチンワークとして定着するには・・・

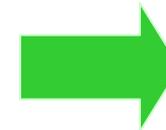
*実際にレファレンスを担当するスタッフが、

*印刷媒体のレファレンスツールの選書も

考慮に入れつつ、

*無理なく無駄なく、特色を出して、

*メンテナンスはしっかり行う!



三重大の例

資料1を
ご参照ください。



リンク集...誰がどのように運営するか

リンクの際の注意点

エキスキューズは必要か

「リンクフリー」, 「ご一報ください」

同一性保持

「トップページにリンクしてください」, 「独立したウインドウで」

著作権法 (同一性保持権)

第二十条

著作者は、その著作物及びその題号の同一性を保持する権利を有し、その意に反してこれらの変更、切除その他の改変を受けないものとする。

法令データ提供システム (総務省 行政管理局)

URL <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi> (accessed 2001-10-24)



まとめ

-インターネット上の情報源に関する
三重大学図書館での取り組み-

平成12年度の発表以降、この1年の動き

(「参考資料」をご参照下さい。)

有料のものと無料のもの **有料のものの契約を進めてきた**

* “MAGAZINE PLUS” “DNA for Library” 電子ジャーナルなどのサービス拡充

レファレンスツールの選書 (評価と導入) **スクラップ&ビルド**

* “日本書籍総目録” や“現行法令CD-ROM”等の中止の検討など

印刷媒体のレファレンスツールとの関係 **ナビゲーション**

* “ナビゲート機能”付のリンク集の作成

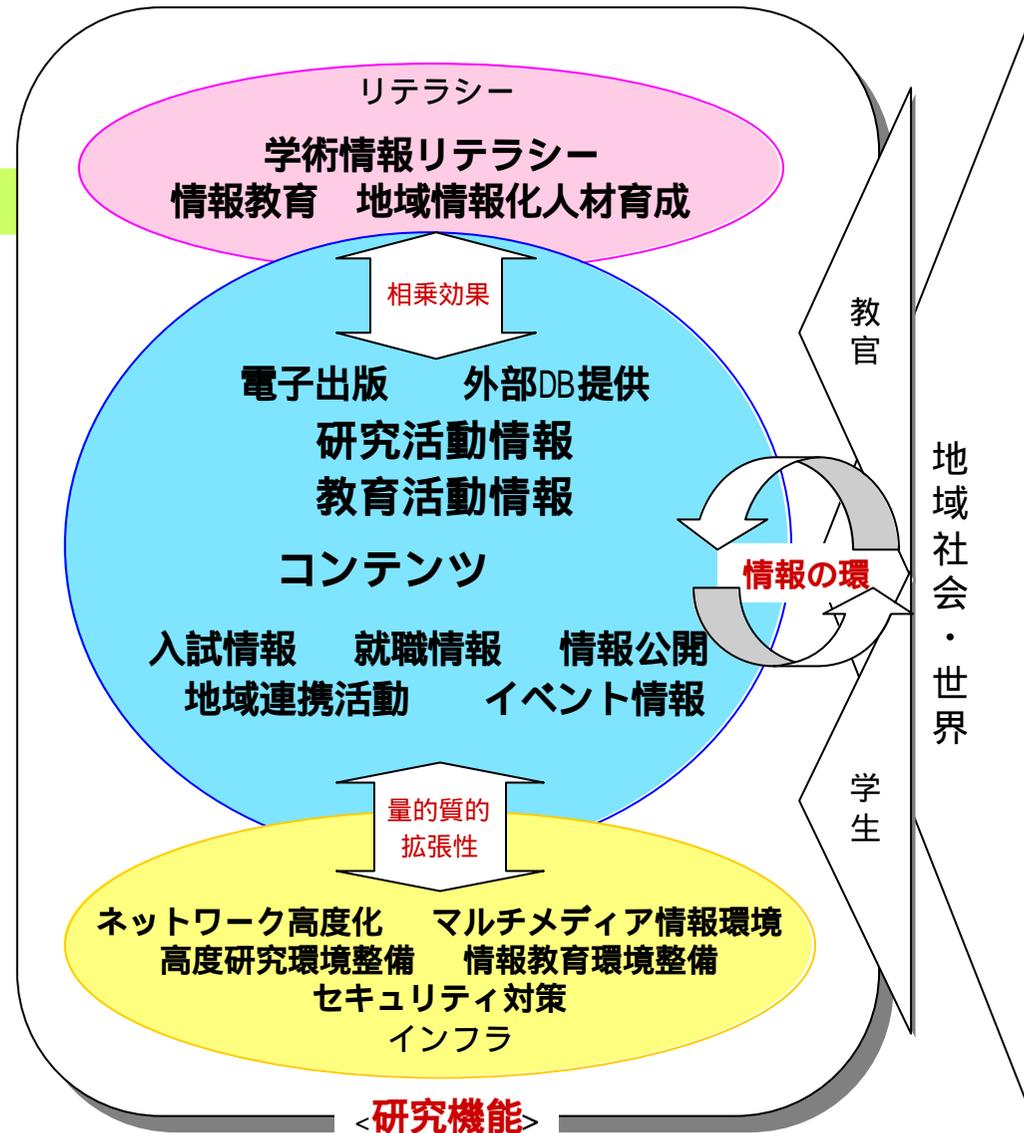
大学図書館の例 「インターネットで文献探索 2000年版」実践女子大学図書館編 [注](#)

三重大学附属図書館の情報戦略



新しい情報サービス
のための
3つのキーワード

インフラ
コンテンツ
リテラシー



注・参考文献一覧

「2005年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて～」
文部省 地域電子図書館構想検討協力者会議 平成12年12月 (accessed 2001-10-24)
URL http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/12/12/001260.htm

“Digital Library” の URL <http://www.avcc.or.jp/library/main.html>
(accessed 2001-10-24)

Ross, C Sheldrick “Has the Internet Changed Anything in Reference ?
- The Library Visit Study, Phase2.” Reference & User Services Quarterly.40(2) 2000

「インターネット上の電子情報資源に関するアンケート調査結果について」
国立国会図書館総務部企画課電子図書館推進室
『国立国会図書館月報』 抜刷 2001年7月 第484号

インターネット無料情報源の有効活用について 医薬情報ネット21
『情報管理』 44(1) 2001.4 pp.28-41 (accessed 2001-10-24)
医薬情報ネット21の Virtual Library URL <http://www.honnet.co.jp/pinet/vl/vlindex.htm>

特集「メタデータ Part-2 ～21世紀のメタデータの利用方法と可能性」の編集にあたって
『情報の科学と技術』 51(8) 2001.8 p.401

電子文献の参照をどう書くか -SIST 02補遺の公刊にあたって-
『情報管理』 44(7) 2001.10 pp.470-477

「インターネットで文献探索 2000年版」伊藤民雄著；日本図書館協会, 2000.9
(accessed 2001-10-24) URL <http://www.jissen.ac.jp/library/newbook.htm>

MEMO

発表者略歴 杉田いづみ 平成 3年～東京大学教養学部図書館受入掛
平成 8年～東京大学総合図書館参考調査掛
平成11年～東京大学情報基盤センター学術情報リテラシー掛
平成12年～三重大学附属図書館参考調査係